

2007年10月1日

当社は富士通株式会社から業務の移管を受け、国内外の**サプライヤー監査業務を開始**いたしました。品質システム・製造プロセス監査および規制物質管理システム監査業務を受託し、継続的に安定した品質の確保をサポートいたします。

富士通クオリティ・ラボ株式会社（以下 FQL）では、富士通株式会社（以下 富士通）での製品開発により培われたナレッジをベースに、製品信頼度向上のための電子部品やモジュール品（電源・HDD・LCD 等）の**信頼性評価から故障解析・各種材料の分析とそのトータルソリューション**を提供しております。

2006年8月1日のFQL発足以降は、様々な業種のお客様から信頼性評価や故障解析、材料分析およびそれらのコンサルタント業務依頼が順調に増加しており、単なる評価試験の依頼だけではなく、FQLの**技術と様々な経験・ノウハウを基にした故障率や原因の推定等**を高く評価頂いております。

最近では、外資系お客様が故障解析の迅速化を図るために、当該業務をFQLに依頼されるケースも増えており、Fab レスの（生産を外部委託している）お客様からは自社の品質保証部門として、信頼性評価や故障解析および、それらの結果をエンドユーザー様へ報告するまでの商談も進んでいます。

一方、各企業においては、昨今の環境問題をはじめとする各種規制に対して万全の対応が求められております。さらに、海外部品調達率の増加に伴い上記の各種評価・分析に加えて、**調達先（サプライヤー）での品質管理や各種規制に対する適合状態確認の重要性**がますます増大しております。

FQLではこれに応えるべく、富士通から**国内外のサプライヤー監査業務の移管を受けて、10月1日より業務開始**いたしました。サプライヤーの品質は、新規採用時は基本的に自社で十分評価した製品を供給するのが殆どであります。それでも品種によっては5～30%の信頼性劣化不具合が発生しており、量産段階での不具合は、その殆どがサプライヤーでのプロセス管理や変更管理の不備に起因するものです。したがって、**サプライヤー監査は、取引開始時の品質システム監査に加えて、製造プロセスのFMEA（Failure Mode and Effect Analysis:故障モードと影響分析）や評価・故障解析のノウハウを基にした定期的な製造プロセス監査が重要**となります。

FQLでは、電子部品やモジュール製品毎に専門技術者を配置して、上記監査のサービスが提供できる体制を整えており、源流からの品質保証に貢献いたします。

有害規制物質に関しては、不具合が発生しますと製品の出荷停止や製品リコール等の重大問題となり、その被害が膨大なものとなるばかりでなく、信用まで失墜してしまいます。

このため、FQLでは**専任の監査員がその管理システムの監査を行い、管理レベルの低いサプライヤーに対しては、結果のフォローを行なうと共に、当該サプライヤーの管理システムについて要求事項を満足させるレベルまでサポート**を行ないます。また、**定期的な監査も受託**しております。